

## ■活動の名称 路上実験イベント なんだかんだ12

### 1:基本情報

#### ① 主催者

神田プレイスメイキング実行委員会

#### ② 実施場所(エリア)

テラススクエア西側道路、テラススクエア公開空地

神田ポートビル、神田ポートビル前道路

神田税務署駐車場

#### ③企画から実施までの活動の流れ(活動に必要な申請書関係含む)

##### 【企画検討】

5月:公募提案に向けた企画検討

6月下旬~:採択後の企画検討

##### 【準備】

6月5日:警視庁交通部及び神田警察署との打合せ【打合せ内容:パーキングメーターの利用】

7月1日:千代田区景観・都市計画課との打合せ

7月4日:神田の未来ワークショップ

9月4日:千代田区景観・都市計画課との打合せ

環境まちづくり総務課占用係との打合せ

9月17日:千代田区占用係との打合せ

10月14日:千代田区景観・都市計画課との打合せ

10月15日:道路使用許可申請書提出

10月上旬:広報の作成

10月16日~10月23日:キッチンカーの公募

##### 【活動実施】

11月3日:活動実施

#### ④活動の内容

【実施概要】※当日配布のチラシより引用



路上実験  
イベント

# なんだかんだ

日時

2025

11 / 3

MON

文化の日

11:00~19:30

※すずらん横丁の開催時間は11:00~15:00です



なんだかんだWEBサイト

主催

神田プレイスメイキング実行委員会

後援

千代田区

## 【イベント当日の様子】

路上パーキングメーター区画を活用したキッチンカーの設置や、道路上に敷いた畳の上で展開する様々な体験プログラムおよび公開空地を活用したミニ SL や移動式水族館など、多彩な催しが行われた。

### ○キッチンカーブース



### ○キッチンカーブース



### ○キッチンカーブース



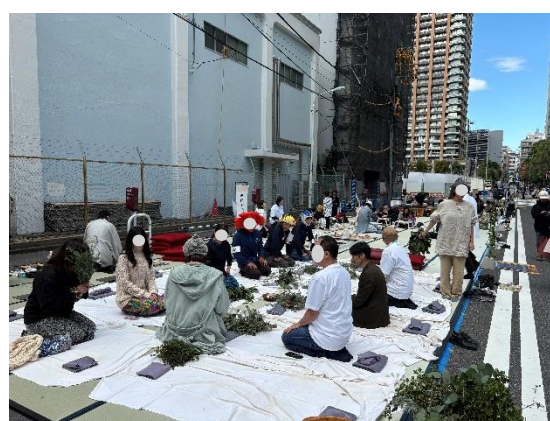
### ○テラススクエア西側道路の様子



### ○神田ポートビル前道路でのイベント



### ○神田ポートビル前道路でのイベント



○神田ポートビル前道路でのイベント



○神田ポートビル前道路でのイベント



○神田ポートビル前道路でのイベント



○車いすのイベント



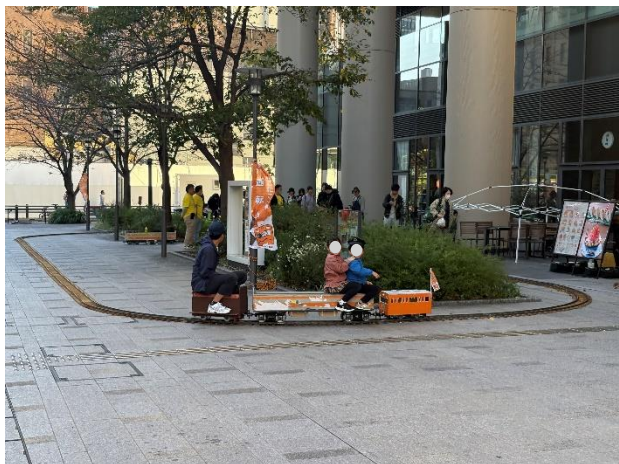
○テラススクエア公開空地でのイベント



○テラススクエア公開空地でのイベント



○テラススクエア公開空地でのイベント



## 2:活動の実施の仕方

### ① 活動の実施体制

#### 【主催】

・神田プレイスメイキング実行委員会(日建設計総合研究所、株式会社ゆかい):活動の企画・準備・実施

#### 【協力】

・オープンカンダ:広報の協力

・星野諭(かーびー):活動の企画の協力

・御代田和弘(4FRAMES 代表):活動の準備の協力

・その他の協力者(以下に示す団体・個人等):出演等の活動の実施の協力

伊藤千枝子、カクシンハン、共立女子大学 建築・デザイン学科 藤本ゼミ、サウナラボ神田、佐野夢果、篠崎芽美、鈴木杏、正則学園ビッグバンド部&花いけ男子部、千葉有莉、辻政博、つむぎやさん、東京都市大学 都市生活学科 中島ゼミ、TOTONOL、TOBICHI 東京、一般社団法人ナースメン、錦町三丁目町会、はっとりこうへい、就労継続支援 B 型事業所ハーモニー、ひびのこづえ、多機能型就労支援事業所ひまわり、藤本信行、労継続支援 B 型事業所ベースキャンプ、株式会社ほぼ日、ほぼ日の学校、松田純子、画材循環プロジェクト「巡り堂」、安田不動産株式会社、株式会社ゆかい、株式会社 Laspy、若鍋久美子、移動式ミニ機関車、移動式水族館、移動式けん玉屋台、小沢敦志、錦町三丁目町会、錦町三丁目第一町会、神田税務署、神田警察署、神田消防署

### ② 活動の収支状況

#### 【収入合計:285.5 万円】

・協賛金:153 万円

・業務委託費:77万円

・千代田区活動支援金:30 万円

・募金:6万円

・出店料:0.7 万円

・主催者に参画する企業等による不足分の負担:18.8 万円

#### 【支出合計:285.5 万円】

・制作費・宣伝広告費:41.9 万円

・出演者謝礼:115.9 万円

・設備費等:127.7 万円

### ③ 広報活動の内容

・区広報紙への掲載

・近隣町会・商店街組合員へのチラシ配布

・千代田区の掲示版へのポスター掲示

・SNS での周知

・web サイトでの周知

## 今後の活動の展望

### ①今回の活動を通じて実現した「地域課題の解決」、「新たな価値の創造」

- 神田ポートビル前では 2,000 人程度の多くの集客があり、「なんだかんだ」の活動の認知が広がってきた。
- 普段車通りや人通りが少ない道路を活用してイベントを行い様々な催しを展開することで、人々が憩い、楽しめる空間を提供できた。
- 公園や空地が少ない街中で、子どもたちが遊ぶ場所を提供できた。
- キッチンカーを複数台設置し、街中を訪れる人々の利便性を高めた。
- キッチンカーによる収益を得られ、地域活動のための収入の多様化を実現した。
- キッチンカー導入においては、区を含めて、警察との事前協議を複数回実施した。協議を重ね、本取組は、地域の賑わい創出や交流促進といった公共性を有する活動として位置づけられており、道路を使い、単に営利活動を行う取組ではない(出店料は本取組に還元)ということ、道路を封鎖したエリア内であれば安全性が担保され、導入が可能といった整理が得られた。
- また、千代田区との協議を重ね、キッチンカーの設置にあたっては公募を行い、公平性を担保した。

### ②活動を進める上での課題や苦勞したこと

- キッチンカー側の道路は全面封鎖ができず、人流がそこまで大きくなかったことから売上げはあまり高くなかった。
- 警察との協議の結果、下記2点の理由からキッチンカー営業は一日のみとなった。
  - ① 時間制限駐車区間(路上パーキングメータの区画)は道路空間の中で、短時間(最大60分まで)の駐車を特例的に認めている区画であるため、キッチンカーが当該区間を長時間使用することの許可は難しい。
  - ② 社会実験である「路上実験イベントなんだかんだ12」の一部として、当該区間にキッチンカーを設置することは、地域還元の取組として整理できるため許可は可能である。一方で、イベント実施日以外にキッチンカーのみを設置する場合については、対外的に営利活動と見なされる可能性があることに加え、近隣に空地等が存在する中で、あえて道路上で実施する合理的な理由を整理する必要があるため、許可は難しい。
- キッチンカーのある道路のエリアと、ポートビルのエリアの連携が難しかった。
- 支出が収入を上回り、取組全体において赤字になってしまった。不足分は主催者が負担することになった。

### ③:①や②を踏まえた今後の活動に向けた方針

- 活動を続けていくための収益源を探りたい。
- これまでの成果を PR できるように、冊子などを制作したい。
- 信頼性を高め、様々な協力を得ながら、持続可能な組織運営を行うために、法人化を目指したい。